令和４年度　福岡県農業大学校外部評価会議　会議録（要旨）

令和４年度福岡県農業大学校外部評価会議　会議録（要旨）についてお知らせします。

１　日時・場所

令和５年３月２２日（水）13 時 30 分～15 時 00 分　　福岡県農業大学校　大教室

２　出席者

○外部評価委員（４名）

農業大学校元同窓会　会長　進藤重徳氏

県立福岡農業高等学校　校長　月俣誠司氏

福岡県農業協同組合中央会担い手・営農ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ　センター長　重松信和氏

県後継人材育室　室長　川口哲也氏

※福岡県青年農業士会　会長　竹村氏は欠席

○福岡県農業大学校職員（６名）

校長、副校長、教務部長、担当職員

３　評価事項

○令和４年度取組実績及び目標達成状況について

重点目標：先進技術と高い経営感覚を備えた新規就農者の育成・確保

卒業生・修了生の新規就農者割合６３％

実　績　：卒業生・修了生の就農者割合４８％（目標達成度７６％）

４　評価の概要

○令和４年度取組実績について

・目標値達成には至ってないが、「人財の育成」というテーマのもとに各種事業を概ね計画通りに業務が進められている。

・ホームページの充実や高校訪問、オープンキャンパス等の取組みが学生確保につながっていることは評価できる。次年度はオープンキャンパス等のさらなる充実（農業ＤＸの取組み紹介等）を計画しており、期待できる。

・「スマート農業」「労務管理」等の講義を追加・必須化する等、時代背景に応じた対応がなされている。今後もしっかりと継続していくことが重要である。

・新規就農者割合 48%は評価できる数値。就農支援資金（国庫事業）の活用にも関連するが、卒業・研修終了後の状況について追跡調査ができればよい。

・非農家出身の学生が多い中、農家留学研修、インターンシップ等により農業の実態を学ぶとともに、卒業・修了後の結びつきの機会を設定することは重要である。農大卒業生との連携も含めて取組をお願いする。

・農地・施設の確保が難しく、資材費も高騰している状況を踏まえ、独立自営就農はハードルが高いため、雇用就農は有効な手段と考える。

・今後とも福岡県の次世代の農業従事者の確保・育成について意見交換をお願いする。